

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東北大学
設置者名	国立大学法人東北大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	人文社会学科	-	29	43	-	72	13	
教育学部	教育科学科	-		33	-	62	13	
法学部	法学科	-		28	-	57	13	
経済学部	経済学科	-		32	-	61	13	
	経営学科	-			-	61	13	
理学部	数学科	-		7	4	40	13	
	物理学科	-			1	37	13	
	宇宙地球物理学科	-			9	45	13	
	化学科	-			40	76	13	
	地圏環境科学科	-			9	45	13	
	地球惑星物質科学科	-			2	38	13	
	生物学科	-			15	51	13	
医学部	医学科	-		-	163.5	192.5	19	
	保健学科 (看護学専攻)	-			111	140	13	
	保健学科 (放射線技術科学専攻)	-			75	104	13	
	保健学科 (検査技術科学専攻)	-			91.5	120.5	13	
歯学部	歯学科	-		-	146	175	19	
薬学部	創薬科学科	-		4	5	38	13	
	薬学科	-			57	90	19	
工学部	機械知能・航空工学科	-		12	13	54	13	
	電気情報物理工学科	-			27	68	13	
	化学・バイオ工学科	-			6	47	13	
	材料科学総合学科	-			19	60	13	

		建築社会環境工学科 (社会基盤デザインコース、水環境 デザインコース、都市システム計画コース)	-			15	56	13	
		建築社会環境工学科 (都市・建築デザインコース、都市・ 建築学コース)	-			20	61	13	
農学部		生物生産科学科 (植物生命科学コース)	-		13	18	60	13	
		生物生産科学科 (農業経済学コース)	-			11	53	13	
		生物生産科学科 (動物生命科学コース)	-			16	58	13	
		生物生産科学科 (海洋生物科学コース)	-			13	55	13	
		応用生物化学科 (生物化学コース)	-			20	62	13	
		応用生物化学科 (生命化学コース)	-			15	57	13	
	(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/education/01/education0111/kamoku_kyomu.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東北大学
設置者名	国立大学法人東北大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/02/disclosure0201/ 東北大学役員名簿（氏名、役職、任期、経歴）
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	第一生命保険フェロー	R6. 4. 1～ ～R8. 3. 31	事業財務戦略担当
常勤	文部科学省職員	R6. 7. 11 ～R8. 3. 31	人事労務・環境安全・施設担当
常勤	国立研究開発法人産業 技術総合研究所職員	R6. 7. 2 ～R8. 3. 31	産学連携担当
非常勤	国立研究開発法人理化 学研究所職員	R6. 4. 1 ～R8. 3. 31	教育研究・研究推進・国際展開担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東北大学
設置者名	国立大学法人東北大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

(授業計画の作成・公表に係る取組の概要)

シラバスは、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき構成される授業科目の内容を保証するものであることから、全学共通の「東北大学シラバス作成基準」を定め、綿密な授業設計に基づいて、授業の目的、学修の到達目標、授業の内容・方法、成績評価の各要素を中心に、「学生の学修を支援する」視点に立ち、以下の点に留意して作成することとしている。

- (1) この授業科目を履修することにより期待される学修成果を到達目標として学生に明示する。
- (2) 到達目標に達するための具体的な授業内容と方法、授業時間外学修について明示する。
- (3) 到達目標の達成水準を判断する手続きについて、成績評価方法として具体的に示す。

シラバスには、授業科目名、科目ナンバリングコード、曜日・時限、受講対象、担当教員、開講セメスター等のほか、原則として次の項目を明示することとしている。

- (1) 授業題目
- (2) 授業の目的と概要
- (3) 学修の到達目標
- (4) 授業の内容・方法と進度予定
- (5) 成績評価方法
- (6) 教科書・参考書
- (7) 授業時間外学修
- (8) 使用言語
- (9) 実務・実践的授業の別
- (10) 主要授業科目(学部のみ)の別
- (11) その他

シラバスの作成には学務情報システムを利用しており、次年度の開講授業科目が決定した後の12月から2月にかけて、授業担当教員が前述の各項目について入力を行い、作成したシラバスは3月下旬以降、学務情報システム(ログイン不要)や各学部Webサイトにおいて公表している。

また、成績評価の基準についても、全学共通の「成績評価区分」を定めており、本学のWebサイトで公表している。

なお、各学部の専門教育科目は各学部規程及び履修内規に、全学教育科目は全学教育科目等規程で定めており、本学のWebサイトで公表している。

授業計画書の公表方法	東北大学全学教育及び各学部ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/education/01/education0103/																
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。																	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 単位の認定は、シラバスに明示された成績評価の方法に従って、筆記試験やレポート、平常点等複数の方法により行っている。 学部・大学院共通の成績評価基準として「成績評価区分」を定め、到達目標の達成水準と成績評価の相互関係を明確に示している。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績表示</th><th>評価等 () 内は点数の区分および到達目標の達成水準における目安</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AA</td><td>成績が特に優秀であるもの (90点～100点、到達目標を極めて優れた水準で達成している。)</td></tr> <tr> <td>A</td><td>成績が優秀であるもの (80点～89点、到達目標を優れた水準で達成している。)</td></tr> <tr> <td>B</td><td>成績が良好であるもの (70点～79点、到達目標を標準的な水準で達成している。)</td></tr> <tr> <td>C</td><td>成績が可であるもの (60～69点、到達目標を達成している。)</td></tr> <tr> <td>D</td><td>成績が不可であるもの (59点以下、到達目標に達していない。)</td></tr> <tr> <td>合格</td><td>成績が合格であるもの</td></tr> <tr> <td>認定</td><td>本学において修得した単位と認定したもの</td></tr> </tbody> </table> また、全学教育科目では「全学教育科目の成績評価ガイドライン」を策定し、成績評価の考え方を示すことで厳格かつ適正な成績評価に努めている。		成績表示	評価等 () 内は点数の区分および到達目標の達成水準における目安	AA	成績が特に優秀であるもの (90点～100点、到達目標を極めて優れた水準で達成している。)	A	成績が優秀であるもの (80点～89点、到達目標を優れた水準で達成している。)	B	成績が良好であるもの (70点～79点、到達目標を標準的な水準で達成している。)	C	成績が可であるもの (60～69点、到達目標を達成している。)	D	成績が不可であるもの (59点以下、到達目標に達していない。)	合格	成績が合格であるもの	認定	本学において修得した単位と認定したもの
成績表示	評価等 () 内は点数の区分および到達目標の達成水準における目安																
AA	成績が特に優秀であるもの (90点～100点、到達目標を極めて優れた水準で達成している。)																
A	成績が優秀であるもの (80点～89点、到達目標を優れた水準で達成している。)																
B	成績が良好であるもの (70点～79点、到達目標を標準的な水準で達成している。)																
C	成績が可であるもの (60～69点、到達目標を達成している。)																
D	成績が不可であるもの (59点以下、到達目標に達していない。)																
合格	成績が合格であるもの																
認定	本学において修得した単位と認定したもの																

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、学生の学習意欲を高め、適切な修学指導に資するとともに、厳格な成績評価を推進し、学びの質を向上させることを目的として、「東北大学におけるGPAに関する申し合わせ」を定めている。

GPAは、当該学期における学修の状況及び成果を示す指標としてのGPA（学期GPA）並びに課程在学中における全期間の学修の状況及び成果を示す指標としてのGPA（累積GPA）の二種類としている。

学期GPA及び累積GPAの計算式は、以下のとおりであり、算出された数値の小数点第3位以下は切り捨てとしている。

【学期GPAの計算式】

学期GPA＝(当該学期に評価を受けた授業科目のGP×当該授業科目の単位数)の合計／当該学期に評価を受けた授業科目の単位数の合計

【累積GPAの計算式】

累積GPA＝(課程在学中における全期間に評価を受けた授業科目のGP×当該授業科目の単位数)の合計／課程在学中における全期間に評価を受けた授業科目の単位数の合計

また、各学部規程、各学部履修内規及び全学教育科目等規程に定める成績の評価に与えられるGP（Grade Point）は以下のとおりとしている。

成績の評価		GP
5段階評価	素点	
AA	100-90	4.0
A	89-80	3.0
B	79-70	2.0
C	69-60	1.0
D	59-0	0.0

GPA対象となる授業科目は、GPが与えられる評価によって成績認定される授業科目としているが、実際にGPAを算定する際には、各学部においてGPA利用の目的に照らし、適切な方法をもって選択し、又は除外することができる。

各学部（学科）では、算出したGPAをもとに所属学生の成績分布状況を把握しており、成績不振の基準の一つとして、学生の修学指導に活用している。

また、大学間協定校への交換留学においては、派遣候補者の学内選考において、GPAを評価項目の一部として、活用している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

東北大学ホームページへの掲載
<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/education/01/education0110/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

東北大学及び各学部では、学士課程におけるディプロマ・ポリシーを以下のとおり策定しており、本学の Web サイトにおいて公表している。

東北大学ディプロマ・ポリシー（学士課程）

東北大学では、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与する。

- ①専門分野に関する知識及び学問分野全体への興味関心と幅広い知識に基づく複眼的視野を有している
- ②教養ある社会人としての素養を備え、専門分野特有の技能を生かして社会に貢献できる
- ③グローバル社会において、指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持ち、基礎能力を備えている

東北大学文学部ディプロマ・ポリシー

東北大学文学部では、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与する。

- 1.人間とその言語や文化、社会や歴史に関する堅実な実証的知識および人間性への深い洞察に根ざした人文社会科学的知見を身につけている
- 2.専門分野の学問をととして人間性に対する鋭敏な感受性と現実社会に対する透徹した認識を体得し、それを基盤として国際社会の発展に積極的に貢献しうる知性と行動力を備えている
- 3.自立的かつ批判的な人間理解を追求し、現代社会が直面する様々な課題に積極的に貢献しうる

東北大学教育学部ディプロマ・ポリシー

東北大学教育学部の教育目標に沿って設定された授業科目を履修し、卒業要件以上の単位を修得して、「学士（教育学）」の学位（ディプロマ）を取得して卒業する。本学部では以下のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を定め、卒業に際して学生が身につけるべき力を明示している。

- ①教育に関する様々な専門領域の知識をふまえ、広い視野で教育を捉える力を身につけている。
- ②教育における深い洞察力を身につけている。
- ③自主的に課題を設定し、その課題解決に向けた企画・実践力を身につけている。

東北大学法学部ディプロマ・ポリシー

東北大学法学部では、次に掲げる教育目的に従い、全学教育科目の単位を 39 単位以上及び専門教育科目の単位を 90 単位以上（うち私法・公法科目 2 単位以上、基礎法科目 2 単位以上及び政治学科目 2 単位以上）を修得した学生について、学士の学位を授与する。

- ①教養ある国際市民としての素養を備え、法学・政治学の正確な基礎的知識を修得し、鋭い正義感と幅広い視野に基づき、社会に生起する問題を発見かつ分析し、利害の衝突を未然に防止し、あるいは紛争を解決することにより良き社会の実現に貢献する人材（法政ジェネラリスト）を養成する。
- ②法学・政治学における学術研究または高度専門職（法政スペシャリスト）となるために共通の前提となる基礎的知識・素養と幅広い見識を有する人材を涵

養する。 ③グローバル社会において、指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持ち、その基となる国際的視野とコミュニケーション能力を有する人材を輩出する。
東北大学経済学部ディプロマ・ポリシー 東北大学経済学部規程に定められた期間在学し、全学教育科目および専門科目の履修を通じて以下の学修成果を修得し、かつ、所定の単位を修得したと認められれば、卒業を認定し学士（経済学）の学位を授与する。 ① 幅広い教養にもとづく経済学・経営学の基礎的知識を備え、社会現象に対して歴史的文脈を踏まえた理論的・実証的な分析を実践できる。 ② 経済学・経営学の知見を活かし、社会的な課題に対してその背景やメカニズムの把握を通じて解決策を追究することができる。 ③ 国際交流等を通して、グローバルな問題への関心と異なる文化背景を持つ人達との対話能力を身につけ、国際的な視野に立って行動することができる。
東北大学理学部ディプロマ・ポリシー 東北大学理学部では、数学、物理学、宇宙地球物理学、化学、地圏環境科学、地球惑星物質科学、生物学の理学各分野における基礎的で普遍的な知識を体系的に修得した者に学士の学位を授与する。この学位は、卒業生が大学院でより高度な教育を受けるための準備が整ったことの証左となるものである。また、同様に、産業界や教育界、官公庁等において理学に関する知識やスキルを活用して、理学に関する教育やそれを応用したプロジェクトの遂行を担いようことを示すものである。 具体的には、以下の学修目標を達成し、各学科の定める卒業要件を満たす単位数を習得した学生に学士の学位を授与する。 1. 理学の基礎的かつ普遍的な知識を体系的に修得している。 2. 基礎的・普遍的な知識を習得する過程で、理学に関する知識や研究倫理を自律的に学ぶ習慣を形成している。 3. 理学を学ぶことの多様な意義、例えば人間形成上の意義やキャリア形成上の意義、社会的意義を理解し、その発展や継承に資する活動に従事することができる。 4. 社会の様々な課題を理学の観点から分析したり、その解決のためのアイデアを導出することができる。 5. 理学を学んだり活用したりするために必要となる語学力やコミュニケーション能力を身につけ、理学に関する様々な活動やプロジェクトに携わることができる。
東北大学医学部医学科ディプロマ・ポリシー 医学部医学科では、定められた全科目（全学教育科目、専門教育科目）を履修し、6つの教育目標に基づいた能力を有する学生に学士（医学）の学位を授与する。 1 プロフェッショナリズム 医師としての基本的な素養と習慣、倫理観を身につけている。 2 医学知識

医学の根幹となる基礎医学・臨床医学の理解を深め、それらを統合し応用する能力を身につけている。

3 コミュニケーション

医師としての基本的な対人関係能力を身につけている。

4 診療技能

患者情報の収集と病態の推論・判断・対応を適切に行うために、臨床技能と患者安全の基本を身につけている。

5 科学的探究

医学における未解決問題を見出し、科学的理論と方法により解決に取り組む能力を身につけている。

6 地域と世界における医療

地域・国・世界の医療を俯瞰し、健康・疾病の動向と保健医療システムを理解している。

東北大学医学部保健学科ディプロマ・ポリシー

医学部保健学科では、次に掲げる目標を達成した学生に学士（看護学）または学士（保健学）を授与する。

- ①高度化、複雑化する医療技術に的確に対処しうる科学的かつ深い専門知識を有している。
- ②科学的根拠に基づく看護学・保健学・臨床医学及び医療技術を実践し、他の保健・医療等専門職と協働してチーム医療・チームケアの一員として参加する能力を有している。
- ③冷静、緻密な総合的判断の元に、優れた倫理観と豊かな人間性及び社会的使命感を持って保健・医療に貢献する能力を有している。

東北大学歯学部ディプロマ・ポリシー

歯学部は、全学教育科目を所定の単位以上修得し、さらに歯学部で定める所定の単位以上を修得し、かつ次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与する。

- (1) 豊かな教養と人間性に裏付けられた知的探究を行う能力を有している。さらに、学際的な解決を要する現代的諸課題に対応するための多様な視点と知識を有し、生涯にわたって自己研鑽を積む姿勢を身に付けている。
- (2) 分子から個体レベルまでの様々な階層における人体の構造・機能と疾患および生体材料、共生微生物叢、医療環境・制度に関する知識を有機的に結合させ、歯科医療に応用できる能力を有している。
- (3) 研究過程等を実践することで「科学する心」を育み、研究への理解や志向を有している。
- (4) 「一口腔一単位」、「全人的歯科医療」を基盤とし、患者中心で、科学的根拠に基づく安全な歯科医療を実践する能力を有している。
- (5) 国際社会の多様性を理解し、歯科医師として、歯学教育、研究、医療、行政を担い、人類の健康・福祉に貢献する志向を有している。

東北大学薬学部ディプロマ・ポリシー

【創薬科学科】

薬学部創薬科学科では、卒業までに全学教育科目および専門教育科目を所定の単位以上修得し、教育理念に基づく以下の4つの目標を達成した学生に対し、学士

(創薬科学)の学位を授与する。

- (1) 教養の涵養：専門の基礎となる自然科学分野のみならず語学や人文科学などの幅広い教養を習得し、豊かな人間性と倫理観を備える。
- (2) 専門の修養：生体の仕組みと疾患の原因を分子科学および生命科学の基礎科学の観点から理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品の創製する能力、および医薬品に関する基礎的な学問を学び創薬科学の発展に寄与する能力を有している。
- (3) 傾聴力とリーダーシップの鍛錬：薬学研究、教育、衛生行政を支える研究心とともに、実習などグループ単位での科目を通して、他者の意見を聴く傾聴力、コミュニケーション力を備え、グループをまとめるリーダーシップを有している。
- (4) 研究力の深化：卒業研究などを通して化学物質と生命の関わりの中における真理を探究し、医薬品に関する薬学研究を支える研究力を有する。さらに国際感覚を磨き、成果を世界に発信する能力を有している。

【薬学科】

薬学部薬学科では、卒業までに全学教育科目および専門教育科目を所定の単位以上修得し、教育理念に基づく以下の5つの目標を達成した学生に対し、学士(薬学)の学位を授与する。

- (1) 教養の涵養：薬学の基礎となる自然科学分野のみならず語学や人文科学などの幅広い教養を習得し、豊かな人間性と倫理観を備える。
- (2) 専門の修養：生体の仕組みと疾患の原因を分子科学および生命科学の基礎科学の観点から理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品を創製する能力および医薬品に関する基礎的な学問を学び創薬科学の発展に寄与する能力を有している。
- (3) 傾聴力とリーダーシップの鍛錬：薬学研究、教育、衛生行政を支える研究心とともに、実習などグループ単位での科目を通して、他者の意見を聴く傾聴力、コミュニケーション力を備え、グループをまとめるリーダーシップを有している。
- (4) 医療人としての使命感：薬の適正使用をはかる医療人としての使命感を備えている。
- (5) 研究力の深化：卒業研究などを通して化学物質と生命の関わりの中における真理を探究し、医薬品に関する薬学研究を支える研究力を有する。さらに国際感覚を磨き、成果を世界に発信する能力を有している。

東北大学工学部ディプロマ・ポリシー

東北大学工学部は、世界を先導する研究者あるいは技術者を輩出することが社会から期待されている。このために、全学教育科目を所定の単位以上修得し、さらに工学部および所属する学科が定める所定の単位以上を修得することを通して、人類の持続的発展に貢献する自覚と展望、及び以下の知識と能力を身につけた学生に学士の学位を授与する。

1. 自然や人間・社会についての深い理解
2. 工学共通の基礎知識と各専門分野に関する基盤知識
3. データや事実に基づく的確な分析能力と論理的思考能力
4. 他者と共同で課題に取り組むためのチームワーク能力
5. 国際的な場で通用する基礎的な外国語能力
6. 発表内容に関する討論を行うためのコミュニケーション能力
7. 国際社会の一員としての広い視野

8. 自ら考え行動する能力

東北大学農学部ディプロマ・ポリシー

東北大学農学部では、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与します。

1. 農学を通じた社会的貢献

- ① 食料，健康，環境に関する広範な知識と技術を理解・習得し，豊かな農学的思考と教養に基づく幅広い視野を持ち，社会に貢献できる能力を有している。
- ② 高い倫理性を有し、科学技術の進展と、世界の持続的な社会の実現に寄与する能力がある。

2. 国際的な教養と汎用的技能

- ① 全学教育で得た自然科学、人文科学、社会科学の基本的な知識をもとに、専門教育で農学における先端的な研究内容を理解する。
- ② グローバル社会において、指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持つとともに、そのための基礎能力を備えている。

3. 専門分野の知識と研究能力

- ① 食料，健康，環境に関する専門的知識を有し、研究実践に携わる能力を有する。
- ② 日本語及び英語で適切に情報を収集し，それらを活用できる基礎的な語学力を身に付け、農学における先端的な研究内容を、説明できる能力を身に付けている。
- ③ 自然科学分野、社会科学分野の高い知識と研究能力を基に、社会ニーズに応じて様々な問題の解決に主体的に取り組む社会のリーダーとなり得る。

卒業の認定に際しては、東北大学学部通則に定める修業年限期間（医学部医学科、歯学部、薬学部薬学科を除き4年、（医学部医学科、歯学部、薬学部薬学科は6年））在学し、かつ所定の授業科目を履修し、卒業に必要な単位を修得した者又は所定の授業科目を履修し、その試験に合格した者には、卒業を認め、学士の学位を授与している。

【学部別卒業要件単位数一覧】

学部名	学科名		卒業要件単位数
文学部	人文社会学科		126 単位
教育学部	教育科学科		125 単位
法学部	法学科		129 単位
経済学部	経済学科		125 単位
	経営学科		
理学部	数学科		124 単位
	物理学科		
	宇宙地球物理学科		
	化学科		
	地圏環境科学科		
	地球惑星物質科学科		
	生物学科		
医学部	医学科		217.5 単位
	保健学科	看護学専攻	145 単位
		放射線技術科学専攻	136 単位

		検査技術科学専攻	127 単位
歯学部	歯学科		193 単位
薬学部	創薬科学科		142 単位
	薬学科		202 単位
工学部	機械知能・航空工学科		130 単位
	電気情報物理工学科		124 単位
	化学・バイオ工学科		128 単位
	材料科学総合学科		129 単位
	建築社会環境工学科 (社会基盤デザインコース、水環境デザインコース、都市システム計画コース)	125 単位	
	建築社会環境工学科 (都市・建築デザインコース、都市・建築学コース)		
農学部	生物生産科学科 (植物生命科学コース)	133 単位	
	生物生産科学科 (農業経済学コース)		
	生物生産科学科 (動物生命科学コース)		
	生物生産科学科 (海洋生物科学コース)		
	応用生物化学科 (生物化学コース)		
	応用生物化学科 (生命化学コース)		
卒業の認定に関する 方針の公表方法		東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf	

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東北大学
設置者名	国立大学法人東北大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	官報及び本学HPへの掲載
収支計算書又は損益計算書	官報及び本学HPへの掲載
財産目録	該当なし
事業報告書	本学HPへの掲載
監事による監査報告(書)	本学HPへの掲載

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 国立大学法人東北大学 対象年度: 2025年度)
公表方法: 東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/02/disclosure0202/
中長期計画(名称: 東北大学ビジョン2030 対象年度: 2020～2025年度)
公表方法: https://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/vision/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 東北大学ホームページへの掲載 https://c.bureau.tohoku.ac.jp/kyomu/shitsuhosyo/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 東北大学ホームページへの掲載 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/hyoka/04/daigaku3/daigakuninsho.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
（概要） 東北大学文学部規程（抜粋） 第 1 条の 2 本学部は、人文社会科学的教養に基づく、人間性に対する鋭敏な感受性及び現実社会に対する透徹した認識を身に付け、国際社会の発展に積極的に貢献し得る、知性及び行動力を備えた人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
（概要） 東北大学文学部では、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与する。 1. 人間とその言語や文化、社会や歴史に関する堅実な実証的知識および人間性への深い洞察に根ざした人文社会科学的知見を身につけている 2. 専門分野の学問をととして人間性に対する鋭敏な感受性と現実社会に対する透徹した認識を体得し、それを基盤として国際社会の発展に積極的に貢献しうる知性と行動力を備えている 3. 自立的かつ批判的な人間理解を追求し、現代社会が直面する様々な課題に積極的に貢献しうる
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
（概要） 東北大学文学部では、ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。 1. 1 年次には全学教育科目における「基盤科目」「先進科目」「言語科目」等の基礎教養を中心に学び、大学における学修の基盤を形成する。同時に専門への導入として「基礎専門科目（入門）」を学ぶ。 2. 2 年次以降は 2 6 専修のいずれかに所属し、まず 2 年次に「概論」「基礎演習」「基礎実習」「基礎講読」等の「基礎専門科目」において多様な人間文化に関する基礎的知識を幅広く学習する。 3. 3 年次以降には「各論」「演習」「実習」「講読」等の専門教育科目において専門の学問分野を深く学ぶことによって、人文社会科学的方法を理解し身につける。 4. 全学年を通じて全学教育科目および学部専門科目における外国語科目において、国際化する社会に対応できるよう、二つ以上の外国語を習得し実用的な国際的コミュニケーション能力を身につける。 5. 学習成果の評価は、科目の特性に応じ筆記試験、レポート、口頭試験、演習・実習での習熟度等により厳正に行う。 6. 卒業年次には卒業論文あるいは卒業研究の提出を求め、教員の指導のもと、自らの課題を発見し、その解決に取り組むことを可能とする普遍的で創造的な思考能力と表現能力を身につける学習を推進する。 7. 以上の教育課程を通し、人文社会科学的な専門的知識をもつ社会人あるいは大学院生として果たすべき使命を自覚させ、学生の確かな将来展望を築く自律的学習力を育成する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
（概要） 東北大学教育学部規程（抜粋） 第1条の2 本学部は、教育に関する学術的理論及びその応用を学際的かつ総合的見地から教授研究し、理論的基礎に基づく専門的知識及び技能を備えた人材を養成することを通じて、教育及び文化の発展に寄与することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
（概要） 東北大学教育学部の教育目標に沿って設定された授業科目を履修し、卒業要件以上の単位を修得して、「学士（教育学）」の学位（ディプロマ）を取得して卒業する。本学部では以下のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を定め、卒業に際して学生が身につけるべき力を明示している。 ① 教育に関する様々な専門領域の知識をふまえ、広い視野で教育を捉える力を身につけている。 ② 教育における深い洞察力を身につけている。 ③ 自主的に課題を設定し、その課題解決に向けた企画・実践力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
（概要） 東北大学教育学部は、教育に関する理論的基礎に支えられた専門的知識と技能を備え、現代社会が抱える教育の諸問題を総合的かつ体系的に把握し、その解決を具体的に推進しうる人材の育成を行うために、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。 ① 人間・社会や自然についての幅広い教養を身につけるために、人文・社会科学ならびに自然科学に関する全学教育科目を配置している。 ② 初年次において、教育に関する諸問題について広く理解をするために、「教育学への招待」「教育学研究入門」等の学部共通科目を設置している。 ③ 教育に関する専門的知識と技能を獲得するための「講義」を設置している。 ④ 教育の今日的諸問題を把握する力を育成するために、様々な課題を検討する「演習」を設置している。 ⑤ 「講義」や「演習」での学びを基礎としつつ、具体的な課題解決を実体験する「実習」として、「教育学実習」「教育情報アセスメント実習」「教育心理学実験Ⅰ、Ⅱ」を設置している。 ⑥ 指導教員を中心とした複数の教員による指導の下で、教育に関する課題を自主的に設定し、解決に向けた企画・実践力を育成するために「研究指導」ならびに「卒業研究」を設置している。 ⑦ 「講義」「演習」「実習」等専門教育科目に関する学修成果の評価結果をもとに、カリキュラムの不断の見直しを行う。 なお、学修の成果については、各科目のシラバスなどに記載された学修の到達目標および成績評価方法によって総合的に評価している。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
（概要） 東北大学法学部規程（抜粋） 第1条の2 本学部は、法学及び政治学の正確な知識を備え、広い視野から社会に潜在する諸問題の発見及び分析をし、並びにその解決に主体的に取り組むことにより、社会の発展に寄与することのできる人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
（概要） 東北大学法学部では、次に掲げる教育目的に従い、全学教育科目の単位を 39 単位以上及び専門教育科目の単位を 90 単位以上（うち私法・公法科目 2 単位以上、基礎法科目 2 単位以上及び政治学科目 2 単位以上）を修得した学生について、学士の学位を授与する。 ① 教養ある国際市民としての素養を備え、法学・政治学の正確な基礎的知識を修得し、鋭い正義感と幅広い視野に基づき、社会に生起する問題を発見かつ分析し、利害の衝突を未然に防止し、あるいは紛争を解決することにより良き社会の実現に貢献する人材（法政ジェネラリスト）を養成する。 ② 法学・政治学における学術研究または高度専門職（法政スペシャリスト）となるために共通の前提となる基礎的知識・素養と幅広い見識を有する人材を涵養する。 ③ グローバル社会において、指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持ち、その基となる国際的視野とコミュニケーション能力を有する人材を輩出する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
（概要） 東北大学法学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた教育目的の実現を目指して、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。 1. 学部開講の授業科目を内容に即して「基礎講義」・「基幹講義」・「展開講義」の categories に分け、段階的に配置することによって法学・政治学の基礎的な内容を無理なく体系的に修得させる。 (1)「基礎講義」とは、1・2 年次生を対象に、法や政治の歴史的・思想的・社会的背景を学ぶことを目的とするもので、全学教育と連携しながら幅広い教養と視野を備えた人間の養成を図るものである。 (2)「基幹科目」とは、1 年次後半から 2・3 年次にかけて、「基礎講義」の履修を前提として、法学・政治学の根幹をなす主要科目の修得を図るものである。 (3)「展開講義」とは、3・4 年次において、法学・政治学について、より深い理解とさらに豊かな知見との修得を図るものである。 2. 段階的に配置された講義科目と併行して、1 年次から 4 年次までの学部 4 年間全般にわたって、「基礎」・「基幹」・「展開」の各講義をフォローアップするため、少人数で開かれる「演習」を多数開講する。 3. 成績評価は、講義の場合は定期試験を中心に小テスト・受講態度・課題への取り組み等を総合して評価し、演習の場合は出席、発言の回数や質、課題への取り組み等を総合して評価する方法を原則とする。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載

学部等名 経済学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
（概要） 東北大学経済学部規程（抜粋） 第 1 条の 2 本学部は、経済学及び経営学の融合教育、少人数の演習を重視した教育並びに大学院との連携教育を行うことにより、広い基本的知識、深い専門的及び応用的知識並びに課題探求力を身に付けた、国際的視野を持つ指導の人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
（概要） 東北大学経済学部規程に定められた期間在学し、全学教育科目および専門科目の履修を通じて以下の学修成果を修得し、かつ、所定の単位を修得したと認められれば、卒業を認定し学士（経済学）の学位を授与する。 ① 幅広い教養にもとづく経済学・経営学の基礎的知識を備え、社会現象に対して歴史的文脈を踏まえた理論的・実証的な分析を実践できる。 ② 経済学・経営学の知見を活かし、社会的な課題に対してその背景やメカニズムの把握を通じて解決策を追究することができる。 ③ 国際交流等を通して、グローバルな問題への関心と異なる文化背景を持つ人達との対話能力を身につけ、国際的な視野に立って行動することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
（概要） 東北大学経済学部は、経済学と経営学の融合教育、少人数の演習ならびに大学院との連携教育を通じて、経済に関する幅広くかつ深い専門知識、課題探求力および国際的視野を備えた指導の人材を育成することを目的とする。この教育理念を実現するために、次のような方針に従ってカリキュラムを編成する。 ① 1 年次と 2 年次には、経済学および経営学に関する基本的知識を習得するための科目を配当する。 ② 3 年次以降には、経済学および経営学に関するより専門的・応用的知識を習得するための科目を配当する。さらに、大学院開講科目を一部履修可能とすることで、大学院教育との連携を図る。 ③ 課題探求力を培うため、3 年次と 4 年次に演習科目（ゼミナール）を設ける。少人数教育を重視する観点から、演習科目は必修とする。さらに、4 年次の演習科目では演習論文の作成を求める。 ④ 経済学と経営学の融合教育を目指す観点から、両分野の基礎的な科目を遍く履修することを求め、所属学科によらず卒業必要単位として認定する。 ⑤ 指導力を養うため、少人数教育、大学院との連携教育、インターンシップなどを活用する。 ⑥ 視野を国際的に広げるため、海外留学制度を整備し、留学先で履修した科目についても単位認定を行う。 ⑦ 学修の成果については、各科目のシラバスなどに記載された学修の到達目標および成績評価方法によって総合的に評価する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載

学部等名 理学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
（概要） 東北大学理学部規程（抜粋） 第1条の2 本学部は、理学の基礎知識を修得し、大学院で高度な教育を受けるための能力を有する人材及び理学の基礎知識を活用し、社会の広い分野において主導的役割を果たすことができる人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
（概要） 東北大学理学部では、数学、物理学、宇宙地球物理学、化学、地圏環境科学、地球惑星物質科学、生物学の理学各分野における基礎的で普遍的な知識を体系的に修得した者に学士の学位を授与する。この学位は、卒業生が大学院でより高度な教育を受けるための準備が整ったことの証左となるものである。また、同様に、産業界や教育界、官公庁等において理学に関する知識やスキルを活用して、理学に関する教育やそれを応用したプロジェクトの遂行を担いようことを示すものである。 具体的には、以下の学修目標を達成し、各学科の定める卒業要件を満たす単位数を習得した学生に学士の学位を授与する。 1. 理学の基礎的かつ普遍的な知識を体系的に修得している。 2. 基礎的・普遍的な知識を習得する過程で、理学に関する知識や研究倫理を自律的に学ぶ習慣を形成している。 3. 理学を学ぶことの多様な意義、例えば人間形成上の意義やキャリア形成上の意義、社会的意義を理解し、その発展や継承に資する活動に従事することができる。 4. 社会の様々な課題を理学の観点から分析したり、その解決のためのアイデアを導出することができる。 5. 理学を学んだり活用したりするために必要となる語学力やコミュニケーション能力を身につけ、理学に関する様々な活動やプロジェクトに携わることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
（概要） 1. 教育課程編成の方針 東北大学理学部では、数学、物理学、宇宙地球物理学、化学、地圏環境科学、地球惑星物質科学、生物学の理学各分野における基礎的で普遍的な知識を体系的に修得した者に学士の学位を授与する。（詳細はディプロマ・ポリシー参照。） この観点から理学部の教育課程は理学各分野の基礎から学び始め、次第に先端的内容へと展開していく「積み上げ型」のカリキュラムを編成する。また、学生が「積み上げ型」のカリキュラムを着実に理解していくことができるように、そして学生同士の主体的・共同的な学修を促進するために、TA（Teaching Assistant）等を活用した授業外での学習支援体制を構築し、きめ細かい指導を実施する。 教育課程の編成や運営にあたっては授業評価アンケート等を実施して教育課程の改善を継続的に実施していく。 2. 教育方法・内容 ・学部1年・2年前期では、理学を含めた様々な学問を幅広く学び、学生が理学の学術的特徴や社会的位置づけについて多角的に理解できるようにする。 ・学部2年後期からは、理学に関する専門教育を本格的に展開し、より高度な内容の講義や能動的に理学を学ぶための演習や実習、実験の機会を学生に提供する。また、学部3年後半または4年から研究室教育をスタートさせ、研究指導やキャリア形成支援を行う。 ・理学を学ぶために必要となる語学力や国際経験については、授業および多様な留学プ

プログラムを通してその学修を支援する。

- ・全ての段階において、学生には授業への参加のみならず、授業の予習復習を含めた自律的学修を積極的に行うよう指導する。

3. 学修成果の評価

- ・理学の基礎的かつ普遍的な知識の修得度を評価する。

- ・成績評価の基準及び方法を明示し、客観的に評価する。また、評価結果を学生にフィードバックし、理学に関する確かな学力の形成を促す。

- ・成績評価の基準および方法はそれぞれの授業の目的や内容に即して設定し、シラバスやオリエンテーションの形で学生に適切に周知する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載

学部等名 医学部医学科
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ） （概要） 東北大学医学部規程（抜粋） 第1条の2 本学部は、医学教育により、真理を探究する姿勢を育み、科学的根拠に基づく医学及び医療技術を実践し、病める人の立場になって優れた倫理観及び温かい人間性を持って対応のできる医師、医療技術者及び研究者を育成することを目的とする。 第2条の2 医学科は、教員と学生相互の協調により強固な教育基礎を構築し、医学の根源を解明する研究及び教育を実践し、豊かな人間性及び旺盛な探求心を育むことにより、人類の健康及び福祉に貢献することができる指導力のある高度専門職業人及び研究者を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ） （概要） 医学部医学科では、定められた全科目（全学教育科目、専門教育科目）を履修し、6つの教育目標に基づいた能力を有する学生に学士（医学）の学位を授与する。 1 プロフェッショナルリズム 医師としての基本的な素養と習慣、倫理観を身につけている。 2 医学知識 医学の根幹となる基礎医学・臨床医学の理解を深め、それらを統合し応用する能力を身につけている。 3 コミュニケーション 医師としての基本的な対人関係能力を身につけている。 4 診療技能 患者情報の収集と病態の推論・判断・対応を適切に行うために、臨床技能と患者安全の基本を身につけている。 5 科学的探究 医学における未解決問題を見出し、科学的理論と方法により解決に取り組む能力を身につけている。 6 地域と世界における医療 地域・国・世界の医療を俯瞰し、健康・疾病の動向と保健医療システムを理解している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ） （概要） 医学部医学科では、ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。 <教育課程編成方針> ① 1、2年次は全学教育科目として幅広い一般教養科目と専門教育に活用可能な科目を提供する。1年次より専門教育科目を開始し、医療人、医学研究者として必要な基本的知識・技能・態度を6年間で段階的に修得させる。 ② 研究第一の理念に則り、長期に亘り研究に従事し成果を発表する期間を設ける。医学研究PBL、基礎医学修練、高次臨床修練によって、医療リーダーや医学研究者として必要な能動学習・自己研鑽の技能と態度の涵養をはかる。 ③ 学習成果の適正な評価と個別フィードバックを行い、学習者の内省・自己啓発と能力開発を促進する。 <学修方法・学修過程> 以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

全学教育科目では、幅広い教養を身につけるとともに、専門教育の基礎となる科目も履修します。特に「生命科学」の講義では、必修科目として医師として必要な人体の生物学を学びます。

専門教育科目では、「医学・医療入門／行動科学」「基礎医学／社会医学」「臨床医学」「臨床実習」を順番にすべて履修することが卒業の要件です。

1. 医学・医療入門／行動科学

1年次の専門教育科目として「医学・医療入門／行動科学」があります。これは複数のテーマからなるグループ学習・実習・講義で、1年間続きます。少人数ワークショップ、早期医療体験実習、医療コミュニケーション実習、地域医療を担っている医師の講演など、様々な内容を学びます。

2. 基礎医学／社会医学

1年次後半から3年次前半までの2年間学びます。ここでは、人体の正常な構造と機能を学ぶ科目（解剖学・生理学序説、肉眼解剖学、脳解剖学、組織学、生理学、医化学）と、病気の発症・進展のメカニズムおよび治療の基本原則を学ぶ科目（微生物学、免疫学、遺伝学、病理学、放射線基礎医学、薬理学）を開講します。さらに、集団、環境、制度、予防の観点から健康や病気を学ぶ（衛生学、公衆衛生学、法医学、医の倫理学・社会学）科目と、医学を学ぶ基礎となる科目（医学専門英語）も開講します。

また、3年次に20週間行う「基礎医学修練」では、研究室で実際の研究の方法や考え方を学び、基礎医学研究者や研究医となるための素養を磨く機会を提供します。

さらに、3年次終了後あるいは4年次終了後からは、将来の基礎医学研究者や研究医を目指す学生のために「MD-MC-PhD コース」「MD-PhD コース」も用意しています。

3. 臨床医学

3年次後半から4年次後半までの1年間学びます。ここでは、様々な疾病を多面的に把握しつつ、患者さんをひとりの人間として理解し、診察や検査、診断、治療の基本を学びながら、内科学、外科学、専門医学などの臨床医学の基本を学ぶカリキュラムを編成し、実施します。

4年次後半に、それまでに学んだ知識や技能を評価する全国共通の共用試験を実施します。「臨床実習」に進むには、これに合格しなければなりません。

4. 臨床実習

2年間以上の長期間にわたり、臨床実習および関連する学習や試験等を実施します。

4年次後半から5年次後半までは、全ての診療科を少人数グループで回り、臨床の現場で医療スタッフとともに診療の一部に参加しながら、実際の診療の基礎を学ぶ実習（臨床修練）です。診療科によっては、地域の病院への派遣も行われます。

続く5年次後半からの6ヶ月間は、各学生が興味や進路志望をもとに選択した診療科や分野で4週間ずつ学ぶ実習（高次臨床修練）です。この期間等を利用して海外で実習する機会も用意しています。

6年次後半に卒前最終講義を開講し、基礎系・社会医学系・臨床系分野の教授から、それぞれ専門領域の学問の理念・将来の展望について聴きます。6年次の2月には医師国家試験があります。

<学修成果の評価方法>

学修成果の評価について、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価します。各科目の評価方法については、授業内容とともにシラバスに明示されています。

また、4年次後半には、それまでに身に付けた知識と技能を医療系大学間共用試験（CBT、OSCE）において検証します。6年次後半には、卒業までの6年間で身に付けた知識と技能を卒業試験（筆記、OSCE）において検証します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載

学部等名 医学部保健学科									
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）									
（概要） 東北大学医学部規程 （抜粋） 第1条の2 本学部は、医学教育により、真理を探究する姿勢を育み、科学的根拠に基づく医学及び医療技術を実践し、病める人の立場になって優れた倫理観及び温かい人間性を持って対応のできる医師、医療技術者及び研究者を育成することを目的とする。 第2条の2 2 保健学科は、次の表の左欄に掲げる専攻の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げることを目的とする。									
	<table> <tr> <th>専攻</th><th>目的</th></tr> <tr> <td>看護学専攻</td><td>高い専門的知識及び豊かな人間性を持った看護師及び助産師並びに将来の指導者及び研究者として看護学を発展させることのできる人材の育成</td></tr> <tr> <td>放射線技術科学専攻</td><td>放射線技術科学を身に付けた指導力のある診療放射線技師並びに将来の指導者及び研究者として放射線技術科学を支え得る深い専門的知識及び幅広い教養を持った人間性豊かな人材の育成</td></tr> <tr> <td>検査技術科学専攻</td><td>高度な専門的知識を持ち、人の尊厳に深い理解を持つ医療人としての臨床検査技師並びに将来の指導者及び研究者として医療科学の分野を支え得る人材の育成</td></tr> </table>	専攻	目的	看護学専攻	高い専門的知識及び豊かな人間性を持った看護師及び助産師並びに将来の指導者及び研究者として看護学を発展させることのできる人材の育成	放射線技術科学専攻	放射線技術科学を身に付けた指導力のある診療放射線技師並びに将来の指導者及び研究者として放射線技術科学を支え得る深い専門的知識及び幅広い教養を持った人間性豊かな人材の育成	検査技術科学専攻	高度な専門的知識を持ち、人の尊厳に深い理解を持つ医療人としての臨床検査技師並びに将来の指導者及び研究者として医療科学の分野を支え得る人材の育成
専攻	目的								
看護学専攻	高い専門的知識及び豊かな人間性を持った看護師及び助産師並びに将来の指導者及び研究者として看護学を発展させることのできる人材の育成								
放射線技術科学専攻	放射線技術科学を身に付けた指導力のある診療放射線技師並びに将来の指導者及び研究者として放射線技術科学を支え得る深い専門的知識及び幅広い教養を持った人間性豊かな人材の育成								
検査技術科学専攻	高度な専門的知識を持ち、人の尊厳に深い理解を持つ医療人としての臨床検査技師並びに将来の指導者及び研究者として医療科学の分野を支え得る人材の育成								
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）									
（概要） 医学部保健学科では、次に掲げる目標を達成した学生に学士（看護学）または学士（保健学）を授与する。 ① 高度化、複雑化する医療技術に的確に対処しうる科学的かつ深い専門知識を有している。 ② 科学的根拠に基づく看護学・保健学・臨床医学及び医療技術を実践し、他の保健・医療等専門職と協働してチーム医療・チームケアの一員として参加する能力を有している。 ③ 冷静、緻密な総合的判断の元に、優れた倫理観と豊かな人間性及び社会的使命感を持って保健・医療に貢献する能力を有している。									
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）									
（概要） 医学部保健学科は、ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。 ＜教育課程編成方針＞ ①幅広い教養を修得するための全学教育科目を学ぶとともに、専攻の専門の基礎となる科目による動機づけ、専門の知識や技術の習得、臨地実習を通じた応用力の向上をはかる。 ②ライフサイエンス、ヒューマンサイエンスを探究する姿勢を尊重し、授業・実習、特に卒業研究によって研究マインドを涵養し、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の実践力を備えた医療専門職業人・医療現場のリーダーとして活躍する能力を育成する。 ③学習成果の適正な評価と個別フィードバックを行い、学習者の内省・自己啓発と能力開発を促進する。 ＜学修方法・学修過程＞ 以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。 全学教育科目では、幅広い教養と豊かな人間性、優れた倫理観、柔軟な思考力を身につけるとともに、専門教育の基礎となる科目も履修します。 専門教育科目では、医療を担うにふさわしい人間性と高度医療を支える医学知識と技術を身につけることを目的として、それぞれの専攻において、次のとおり教育課程を編成しています。 『看護学専攻』 ○1年次 1年次では生命の尊厳を理解し、対象の人権擁護の基盤としての看護の哲学と倫理観を身につけます。									

生命倫理学や医療解剖学等の人間を理解する科目を開講します。

○2年次

2年次では看護学の基礎を学びます。

看護学の基本となる科目や看護技術、健康の支援に関する科目を開講します。

また、対象の特性に合わせて身体・心理・社会的ニーズを判断し支援するうえでの必要な知識・技術・態度を身につけるため、専門領域ごとの臨床看護学に関する科目を開講します。

さらに、科学としての看護学を探究する姿勢を身につけるため、看護研究に関する科目を開講します。

○3年次

3年次では看護学の知識と技術の基盤を作ります。

ここでは、臨地実習を実施します。臨地実習では、2年次に学んだ知識を基に実践を行うことで、社会の変動に伴うヘルスニーズを見極め、対象や療養場所、地域の特性に応じた看護の役割を理解し、社会的使命感を持って質の高い看護を提供できる能力を身につけるカリキュラムを編成し、実施します。

また、助産師を目指す学生のために、助産に関する科目を用意しています。

○4年次

4年次では看護学の実践力を備えた医療専門職業人・医療現場のリーダーとして活躍できる能力を身につけます。

高度化、複雑化する医療技術に的確に対処しうる科学的かつ深い専門知識を得ながら、科学的根拠に基づく看護を実践し、他の保健・医療等の専門職と協働してチーム医療・チームケアの一員として参加する能力を身につけるため、チーム医療や総合看護学実習等の総合科目を開講します。

また、卒業研究を実施し、自己の課題とともに看護学の課題を探究するための研究能力と研究マインドの向上を図ります。

4年間を通して創造性・発信力・自主性を備えた優れた学生を育成するために、看護師・助産師になるために必要な科目だけでなく、英語教育、研究教育、キャリア教育等にも力を入れています。

『放射線技術科学専攻』

○1年次

1年次では医療・医学の現場で活躍するための土台を構築します。

人体の構造と機能に関する科目と健康と福祉・疾病と医療に関する科目を開講します。

○2年次

2年次では、放射線技術科学の基礎知識と能力を身につけます。

病理学や総合医用画像解剖学等の医学系講義科目、放射線物理学や放射線生物学等の理学系講義・実験科目、医用電子工学や画像工学等の工学系講義・学内実習を開講します。

○3年次

3年次では、放射線技術科学に関する幅広い専門知識とその実践を学びます。

2年次に引き続き医学・理学・工学に関する科目を開講するとともに、放射線技術科学の専門知識を深めるため、画像診断学や画像撮影技術学等の撮影撮像技術学に関する科目や放射線治療技術学や放射線腫瘍学等の放射線治療技術学に関する科目、医療安全管理学や診療放射線技師関係法規等を開講します。

また、後期からは臨地実習を実施します。臨地実習では、学内講義や学内実習等で身につけた知識と能力を実際の医療の現場でどのように適用し応用すべきかを学ぶ機会を提供し、実践を通じて医療従事者としての高い倫理観を身につけ、社会的使命感、自己管理能力の向上を図ります。

○4年次

4年次では、放射線技術科学の実践力を備えた医療専門職業人・医療現場のリーダーとして活躍する能力を身につけます。

3年次に引き続き臨地実習を実施するとともに、卒業研究を実施します。卒業研究では、高度化する放射線技術科学分野の課題に取り組むことにより、課題解決に必要な情報を収集し、分析・判断・解決できる学問的・臨床的な探究能力と研究マインドの向上を図ります。

また、他の保健・医療等の専門職と協働しながら、高度化、複雑化する医療現場に的確に対処しうる知識と能力を身につけるため、チーム医療と総合医療演習を開講します。

『検査技術科学専攻』

○1年次

1年次では医療・医学の現場で活躍するための土台を構築します。

医療解剖学や医療概論等の医学に関する基礎知識を学ぶ科目を開講します。

○2年次

2年次では検査技術科学の基礎を学びます。

1年次に引き続き医学に関する基礎知識を学ぶ科目を開講するとともに、各検査に必要な知識と能力を身につけるため、血液検査学、病理検査学、一般検査学、生化学検査学、免疫検査学、染色体検査学、輸血・移植検査学、生理検査学に関する講義科目や学内実習科目を開講します。

○3年次

3年次では検査技術科学に関する幅広い専門知識とその実践を学びます。

2年次に引き続き、各検査学に関する講義科目や学内実習科目等を開講するとともに、臨床検査技師の役割や使命、臨床検査部門の業務等と各種管理に関する知識や医療倫理・医療安全や患者急変の対応等の知識を身につけるため、臨床検査総合管理学や医療安全管理学に関する講義科目や学内実習を開講します。

また、後期からは臨地実習を実施します。臨地実習では、講義や学内実習等で身につけた知識と能力を実際の医療の現場でどのように適用し応用すべきかを学ぶ機会を提供し、実践を通じて医療従事者としての高い倫理観を身につけ、社会的使命感、自己管理能力の向上を図ります。

○4年次

4年次では、検査技術科学の実践力を備えた医療専門職業人・医療現場のリーダーとして活躍する能力を身につけます。

3年次に引き続き検査技術科学に関する幅広い専門知識とその実践を学ぶとともに、卒業研究を実施します。卒業研究では、高度化する検査技術科学分野の課題に取り組むことにより、課題解決に必要な情報を収集し、分析・判断・解決できる学問的・臨床的な探究能力と研究マインドの向上を図ります。

また、他の保健・医療等の専門職と協働しながら、高度化、複雑化する医療現場に的確に対処する知識と能力を身につけるため、チーム医療と総合医療演習を開講します。

<学修成果の評価方法>

学修成果の評価について、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価します。各科目の評価方法については、授業内容とともにシラバスに明記されています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載

学部等名 歯学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
（概要） 東北大学歯学部規程 （抜粋） 第 1 条の 2 本学部は、医療従事者、研究者及び教育者としての基本的素養である豊かな教養及び人間性並びに高い倫理観を備え、科学する心を持って知的探求を行い得る、考える歯科医師を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
（概要） 歯学部は、全学教育科目を所定の単位以上修得し、さらに歯学部で定める所定の単位以上を修得し、かつ次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与する。 （1）豊かな教養と人間性に裏付けられた知的探究を行う能力を有している。さらに、学際的な解決を要する現代的諸課題に対応するための多様な視点と知識を有し、生涯にわたって自己研鑽を積む姿勢を身に付けている。 （2）分子から個体レベルまでの様々な階層における人体の構造・機能と疾患および生体材料、共生微生物叢、医療環境・制度に関する知識を有機的に結合させ、歯科医療に応用できる能力を有している。 （3）研究過程等を実践することで「科学する心」を育み、研究への理解や志向を有している。 （4）「一口腔一単位」、「全人的歯科医療」を基盤とし、患者中心で、科学的根拠に基づく安全な歯科医療を実践する能力を有している。 （5）国際社会の多様性を理解し、歯科医師として、歯学教育、研究、医療、行政を担い、人類の健康・福祉に貢献する志向を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
（概要） 歯学部は、豊かな教養と人間性、高い倫理観と問題解決能力を備えた歯科医師、教育研究者を育成することを目標とし、以下の方針に基づき、カリキュラムを編成・実施する。 （1）入学直後の 1 年次には、歯学を勉学する意欲の動機付け（early motivation）と歯科医療現場の早期体験（early exposure）を支援する。 （2）1、2 年次で学ぶ全学教育科目では、豊かな教養と人間性に裏付けられた知的探究を行う能力を涵養し、さらに、2 年次以降に学ぶ専門教育科目との有機的な連携を重視する。 （3）2 年次以降で学ぶ専門教育科目では、分子から個体レベルまでの様々な階層における人体の構造・機能と疾患および生体材料、共生微生物叢、医療環境・制度に関する知識を包括して習得できるよう、「臨学一体」を基盤として、科目間の有機的な連携を重視する。 （4）5 年次で臨床実習に先立ち、基礎系の各分野に配属し、英文論文抄読から研究立案、実施、発表に至る一連の研究過程を経験する歯学基礎演習・基礎研究実習を通して「科学する心」を育み、次代の教育研究者への志向を涵養する。 （5）5、6 年次で、「一口腔一単位」、「全人的歯科医療」を基盤とする診療参加型の臨床実習を通して、次代を担う歯科医師としての技能と態度を涵養する。 （6）1 年次から 6 年次まで、海外短期留学を通して、世界の歯科医療現場を体験することにより、多様な価値観に基づく国際性を養う。 （7）各段階の学修の成果は、筆記試験、口頭試験、実技試験等により客観的に評価する。教育科目の特性に合わせ、小テスト、レポート、観察記録等を活用し、評価を実施する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載

学部等名 薬学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
（概要） 東北大学薬学部規程（抜粋） 第1条の2 本学部は、種々の病気に対する有効かつ安全な医薬品の創製及び薬物治療に関する基礎教育を推進することにより、創薬科学の発展に寄与し得る人材及び薬の専門家として医療の一翼を担い得る人材を養成することを目的とする。 第2条の2 創薬科学科は、創薬科学の研究者又は技術者になるための基礎的な知識及び技術を備えた人材を養成することを目的とする。 2 薬学科は、研究心あふれる高度な薬剤師を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
（概要） 【創薬科学科】 薬学部創薬科学科では、卒業までに全学教育科目および専門教育科目を所定の単位以上修得し、教育理念に基づく以下の4つの目標を達成した学生に対し、学士（創薬科学）の学位を授与する。 （1）教養の涵養：専門の基礎となる自然科学分野のみならず語学や人文科学などの幅広い教養を習得し、豊かな人間性と倫理観を備える。 （2）専門の修養：生体の仕組みと疾患の原因を分子科学および生命科学の基礎科学の観点から理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品の創製する能力、および医薬品に関する基礎的な学問を学び創薬科学の発展に寄与しうる能力を有している。 （3）傾聴力とリーダーシップの鍛錬：薬学研究、教育、衛生行政を支える研究心とともに、実習などグループ単位での科目を通して、他者の意見を聴く傾聴力、コミュニケーション力を備え、グループをまとめるリーダーシップを有している。 （4）研究力の深化：卒業研究などを通して化学物質と生命の関わりの中における真理を探究し、医薬品に関する薬学研究を支える研究力を有する。さらに国際感覚を磨き、成果を世界に発信する能力を有している。 【薬学科】 薬学部薬学科では、卒業までに全学教育科目および専門教育科目を所定の単位以上修得し、教育理念に基づく以下の5つの目標を達成した学生に対し、学士（薬学）の学位を授与する。 （1）教養の涵養：薬学の基礎となる自然科学分野のみならず語学や人文科学などの幅広い教養を習得し、豊かな人間性と倫理観を備える。 （2）専門の修養：生体の仕組みと疾患の原因を分子科学および生命科学の基礎科学の観点から理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品を創製する能力および医薬品に関する基礎的な学問を学び創薬科学の発展に寄与しうる能力を有している。 （3）傾聴力とリーダーシップの鍛錬：薬学研究、教育、衛生行政を支える研究心とともに、実習などグループ単位での科目を通して、他者の意見を聴く傾聴力、コミュニケーション力を備え、グループをまとめるリーダーシップを有している。 （4）医療人としての使命感：薬の適正使用をはかる医療人としての使命感を備えている。 （5）研究力の深化：卒業研究などを通して化学物質と生命の関わりの中における真理を探究し、医薬品に関する薬学研究を支える研究力を有する。さらに国際感覚を磨き、成果を世界に発信する能力を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
（概要） 【創薬科学科】 1. 教育課程の編成の方針 創薬科学科の教育課程は、ディプロマポリシーで掲げた「教養の涵養」、「専門の修養」、「傾聴力とリーダーシップの鍛錬」および「研究力の深化」の各学習目標を達成するため、全学教育科目、専門教育科目（基幹教育科目、展開教育科目、および研究者教育科目）および教職に関する科目から編成する。各科目で習得される知識、技能、態度および能力を明示したシラバスと、各科目および薬学教育モデルコアカリキュラムとの関係性をカリキュラムマップで可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促す。

2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針

- (1) 教養の涵養：1年次および2年次において、基盤科目、先進科目、言語科目、学術基礎科目を配置し、豊かな人間性と倫理観を身につけるための教養を身につける。
- (2) 専門の修養：1年次から4年次にカリキュラムマップに配置された、物理系科目、化学系科目、生物学系科目、衛生系科目、薬理学系科目、薬剤学系科目および法規科目の講義、演習を通して、生体の仕組みと疾患の原因を理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品の創製および医薬品の基礎に関する学問を体系的に学び、創薬科学の発展に寄与しうる人となる素養を身につける。
- (3) 傾聴力とリーダーシップの鍛錬：薬学総合科目（薬学概論1、薬学概論2、専門薬科学実習、課題研究）および実習（構造薬学実習、創薬化学実習1、創薬化学実習2、生命薬学実習、医療薬学実習）を通して、傾聴力およびコミュニケーション力の重要性を学び、他者の意見を聴く傾聴力、コミュニケーション力を備え、グループをまとめるリーダーシップを身につける。
- (4) 研究力の深化：実習（構造薬学実習、創薬化学実習1、創薬化学実習2、生命薬学実習、医療薬学実習）および3年次後期から4年次での研究室における専門薬科学実習、課題研究を通して、化学物質と生命の関わりの中において真理を探究し、薬学研究、教育、衛生行政を支える研究心を身につける。さらに、高い英語の理解力のみならず国際的に発信し、コミュニケーションをはかるための総合的な英語力と国際感覚を身につける。

3. 学習成果の評価の方針

- (1) 科目については、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を評価する。
- (2) 卒業論文ならびに卒業時における資質に関して明確な基準を策定し、評価する。
- (3) 教育課程を、学生の評価も含めて組織的、かつ定期的な評価を実施し、常に改善を続ける。

【薬学科】

1. 教育課程の編成の方針

薬学科の教育課程は、ディプロマポリシーで掲げた「教養の涵養」、「専門の修養」、「傾聴力とリーダーシップの鍛錬」、「医療人としての使命感」および「研究力の深化」の各学習目標を達成するため、全学教育科目、専門教育科目（基幹教育科目、発展教育科目、実務教育科目および研究者教育科目）および教職に関する科目から編成する。各科目で習得される知識、技能、態度および能力を明示したシラバスと、各科目および薬学教育モデルコアカリキュラムとの関係性をカリキュラムマップで可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促す。

2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針

- (1) 教養の涵養：1年次および2年次において、基盤科目、先進科目、言語科目、学術基礎科目を配置し、豊かな人間性と倫理観を身につけるための教養を身につける。
- (2) 専門の修養：1年次から6年次にカリキュラムマップに配置された、物理系科目、化学系科目、生物系科目、衛生系科目、薬理学系科目、薬剤学系科目、病態・薬物治療系科目、法規科目、薬学臨床科目の講義、演習を通して、生体の仕組みと疾患の原因を理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品の創製および薬物治療に関する基礎的な学問を体系的に学び、薬学の発展に寄与しうる人および薬の専門家として医療の中で貢献できる人となれる素養を身につける。
- (3) 傾聴力とリーダーシップの鍛錬：薬学総合科目（薬学概論1、薬学概論2、専門薬学実習、課題研究）、実習（構造薬学実習、創薬化学実習1、創薬化学実習2、生命薬学実習、医療薬学実習）、実務教育科目（医療薬学演習、医療薬学基礎実習、医療薬学病院実習、医療薬学薬局実習）を通して、傾聴力およびコミュニケーション力の重要性を学び、他者の意見を聴く傾聴力、コミュニケーション力を備え、グループをまとめるリーダーシップを身につける。
- (4) 医療人としての使命感：薬学総合科目（薬学概論1、薬学概論2、専門薬学実習、課題研究）、実務教育科目（医療薬学演習、医療薬学基礎実習、医療薬学病院実習、医療薬学薬局実習）を通して、薬剤師の義務と法令を遵守し、医療人としての高い使命感と倫理観を備える。
- (5) 研究力の深化：実習（構造薬学実習、創薬化学実習1、創薬化学実習2、生命薬学実習、医療薬学実習）および3年次後期から6年次での研究室における専門薬学実習、課題研究を通して、化学物質と生命の関わりの中において真理を探究し、薬学研究、教育、衛生行政を支える研究心を身につける。さらに、高い英語の理解力のみならず国際的に発信し、コミュニケーションをはかるための総合的な英語力と国際感覚を身につける。

3. 学習成果の評価の方針 (1) 科目については、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を評価する。 (2) 卒業論文ならびに卒業時における資質に関して明確な基準を策定し、評価する。 (3) 教育課程を、学生の評価も含めて組織的、かつ定期的な評価を実施し、常に改善を続ける。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ） （概要） 東北大学工学部規程（抜粋） 第1条の2 本学部は、東北大学の理念及び教育目的に沿って、自然、人間及び社会についての深い知識及び国際社会の一員としての広い視野を持ち、互いに尊重し合い、自ら考えて行動する、創造性豊かな人材であり、かつ、工学分野において世界を先導する研究者又は技術者としての基礎を身に付け、我が国ひいては世界の文明及び産業を牽引し、人類の持続的発展に貢献することができる人材を育成することを教育目的とする。 第1条の3 前条の教育目的を実現するため、本学部では、次に掲げる知識及び能力のかん養を教育目標とする。 - 一 自然科学及び人文社会科学に関する幅広い教養及び基礎知識 - 二 工学共通の基礎知識及び各専門分野に関する基盤知識 - 三 多様な問題を分析し、論理的に解決するための基礎能力 - 四 語学力、コミュニケーション能力及びチームワーク能力 - 五 国際社会の一員として異なる文化を尊重し、理解する能力 - 六 研究者又は技術者として、人類及び社会に貢献する気概を持ち、自発的に学習し、自ら考え行動する能力
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ） （概要） 東北大学工学部は、世界を先導する研究者あるいは技術者を輩出することが社会から期待されている。このために、全学教育科目を所定の単位以上修得し、さらに工学部および所属する学科が定める所定の単位以上を修得することを通して、人類の持続的発展に貢献する自覚と展望、及び以下の知識と能力を身につけた学生に学士の学位を授与する。 1. 自然や人間・社会についての深い理解 2. 工学共通の基礎知識と各専門分野に関する基盤知識 3. データや事実に基づく的確な分析能力と論理的思考能力 4. 他者と共同で課題に取り組むためのチームワーク能力 5. 国際的な場で通用する基礎的な外国語能力 6. 発表内容に関する討論を行うためのコミュニケーション能力 7. 国際社会の一員としての広い視野 8. 自ら考え行動する能力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ） （概要） 東北大学工学部は、ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、全学教育科目と専門教育科目をバランスよく配し、講義、演習、実験、実習等を適切に組み合わせたカリキュラムを策定する。 教育課程の編成 1. 自然や人間・社会についての幅広い教養を身につけさせるために、自然科学及び人文社会科学に関する全学教育科目を配置する。 2. 工学と自然現象や人間社会との関わりを理解させるために、これらの学問分野に関する専門教育科目を配置する。 3. 社会の課題を解決するために必要となる、情報収集、分析、立案、実行、発表、及びチームワークの能力を育成する科目を配置する。 4. 国際社会の一員として異なる文化を理解する能力、語学・コミュニケーションの基礎能力を育成する科目を配置する。 5. 能動的に学習し、自律的に行動する能力を育成する科目を配置する。

教育方法

1. 教養を高め、工学の基礎知識と専門分野の基盤知識を修得し、主体性と実践力を身に着けるために必要な教育を提供する。
2. 各科目の教授内容および修得すべき知識と能力を明示したシラバスを作成する。
3. カリキュラムマップにより教育課程の全体像を把握させ、計画的な学習を促すとともに、ポートフォリオに学修過程を記録させ、達成度を自覚させる。
4. 専門的な学修の集大成の実践例として卒業研修を行う。

学修成果の評価

1. 授業科目ごとに成績評価の基準及び方法を明示し、これに基づいて客観的に評価する。
2. 学修レベル認定により、学修の到達度を多様な尺度で評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載

学部等名 農学部
教育研究上の目的（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/001.pdf ）
（概要） 東北大学農学部規程（抜粋） 第1条の2 本学部は、食料、健康及び環境に関する広範な知識及び技術を理解し、及び習得し、豊かな農学的思考を基礎として、資源生物の生産及び活用、食料の生産、健康増進、生物遺伝資源の保護並びに環境の保全及び修復に貢献することができる指導的かつ中核的な人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy01.pdf ）
（概要） 東北大学農学部では、次に掲げる目標を達成した学生に学士の学位を授与します。 1. 農学を通じた社会的貢献 ① 食料、健康、環境に関する広範な知識と技術を理解・習得し、豊かな農学的思考と教養に基づく幅広い視野を持ち、社会に貢献できる能力を有している。 ② 高い倫理性を有し、科学技術の進展と、世界の持続的な社会の実現に寄与する能力がある。 2. 国際的な教養と汎用的技能 ① 全学教育で得た自然科学、人文科学、社会科学の基本的な知識をもとに、専門教育で農学における先端的な研究内容を理解する。 ② グローバル社会において、指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持つとともに、そのための基礎能力を備えている。 3. 専門分野の知識と研究能力 ① 食料、健康、環境に関する専門的知識を有し、研究実践に携わる能力を有する。 ② 日本語及び英語で適切に情報を収集し、それらを活用できる基礎的な語学力を身に付け、農学における先端的な研究内容を、説明できる能力を身に付けている。 ③ 自然科学分野、社会科学分野の高い知識と研究能力を基に、社会ニーズに応じて様々な問題の解決に主体的に取り組む社会のリーダーとなり得る。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0901/policy03.pdf ）
（概要） 東北大学農学部では、ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施します。 1. 教育課程の編成の方針 ① 人類の生存基盤である食料、健康、環境に関する基盤的知識を習得させる専門教育科目と幅広い知識や素養を育成する全学教育科目を有機的に関連させたカリキュラムを提供します。 ② 自律的・能動的な学習能力と国際的視野を持って活躍できる能力を育成するための、実践的な実習および研究遂行カリキュラムを提供します。 ③ シラバスに基づく授業、厳格な学修成果・成績評価、自己評価、授業評価アンケートのサイクルを教育改善に活用します。 2. 教育・学習方法に関する方針 ① 生物の本質を究明する独創的かつ萌芽的な基礎研究を推進し、それを発展させるための実習、卒業研修を設定します。 ② グローバル社会において、指導的・中核的役割を果たす学生を育成するために、英語教育および留学生との共修授業を行います。 ③ 卒業時に到達すべき学習目標を各自が設定できるように、履修内容を明記したシラバスを提供し、各科目の関係を可視化したカリキュラムマップを策定します。

④ 教育方法の開発と教育システムの整備を不断に進めます。
3. 学修成果の評価の方針
① 各科目の成績評価は、出席状況、定期試験及びレポート等のシラバスに記載の成績評価方法により、学生便覧に記載の到達度を確認できる成績評価区分に基づいて成績を評価します。
② 実習、卒業研修は、農学の理解を促進させる実践型教育を通じて、学生の自律的・能動的学習力を育成・評価し、卒業論文では、これまでの学習で培った専門分野の知識と研究能力及び自身の研究内容を説明できる能力を評価します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：東北大学ホームページへの掲載

学部等名 全学共通項目
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ・選抜要項・募集要項）
（概要） 東北大学では、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念のもとに、学士課程を通じて、 ① 専門分野に関する知識及び学問全体への興味関心と幅広い知識に基づく複眼的視野を有し、 ② 教養ある社会人としての素養を備え、専門分野特有の技能を生かして社会に貢献でき、 ③ グローバル社会において指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持ち、基礎能力を備える人を育成します。 また学士課程教育では、幅広い知識や素養を育成する全学教育科目と専門分野の基盤的知識を習得させる専門教育科目を有機的に関連させたカリキュラムを提供し、授業内外での能動的な学習を推進するとともに、学生の自律的学習力を育成します。 このため、東北大学は、上記の本学理念に共感し、 ① 21 世紀の人類社会の課題に対し研究者として真剣に取り組み優れた貢献をしようとする志と ② 豊かな学識とリーダーシップを備える職業人として社会の発展に優れた貢献をしようとする志 を抱き、これを実現する固い意志と学問に対する強い好奇心を持つとともに、上記の本学学士課程教育を受けるにふさわしい高水準の学力を備えた学生を求めています。高水準の学力とは、具体的には、高等学校等で幅広い教科目を履修して優れた成績を収め、論理的思考力や問題発見力、分析解決能力、豊かな創造力、発想力、表現力、コミュニケーション能力を有することを指します。さらに倫理性や、学問の課題に主体的にリーダーシップを発揮しながら他の学生と協働して取り組むことができる態度を備えていることを求めます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/002.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	11 人	－					11 人
大学院	－	573 人	442 人	70 人	516 人	45 人	1646 人
附属病院	－	9 人	23 人	70 人	241 人	70 人	413 人
附置研究所	－	120 人	110 人	9 人	154 人	9 人	402 人
その他	－	183 人	119 人	47 人	210 人	20 人	579 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		954 人					954 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：東北大学ホームページ（東北大学研究者紹介システム）にて公表 https://www.r-info.tohoku.ac.jp/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
学務審議会において教育 F D の推進・質保証を組織的・持続的に実施するため、本学における教育に関する F D 活動の指針の策定、高度教養教育・学生支援機構のサポートなど、教育 F D の全学実施体制を構築している。令和 6 年度の教育 F D 実施企画数は 157、学部・研究科教員の教育 F D 受講率は約 100% となり、本学教職員の教育・教育支援上の専門性の開発・向上を推進している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
	人	人	%	人	人	%	人	人
文学部	210	219	104.3	840	975	116.1	-	-
教育学部	70	75	107.1	280	304	108.6	-	-
法学部	160	166	103.8	640	692	108.1	-	-
経済学部	260	278	106.9	1,080	1,133	104.9	20	4
理学部	324	319	98.5	1,296	1,382	106.6	若干人	7
医学部医学科	117	122	104.3	697	733	105.2	-	-
医学部保健学科	144	148	102.8	576	600	104.2	-	-
歯学部	53	53	100	318	327	102.8	-	-
薬学部創薬科学科	60	86	107.5	360	331	108.3	-	-
薬学部薬学科	20				59		-	-
工学部	850	840	98.8	3,320	3,540	106.6	若干人	35
農学部	150	157	104.7	600	657	109.5	-	-

合計	2,418 人	2,463 人	101.9%	10,007 人	10,733 人	107.3%	20 人	46 人
----	---------	---------	--------	----------	----------	--------	------	------

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	204 人 (100.0%)	34 人 (16.7%)	149 人 (73.0%)	21 人 (10.3%)
教育学部	73 人 (100.0%)	17 人 (23.3%)	53 人 (72.6%)	3 人 (4.1%)
法学部	168 人 (100.0%)	38 人 (22.6%)	113 人 (67.3%)	17 人 (10.1%)
経済学部	260 人 (100.0%)	29 人 (11.2%)	204 人 (78.5%)	27 人 (10.4%)
理学部	312 人 (100.0%)	273 人 (87.5%)	29 人 (9.3%)	10 人 (3.2%)
医学部（医学科）	149 人 (100.0%)	1 人 (0.7%)	142 人 (95.3%)	6 人 (4.0%)
医学部（保健学科）	145 人 (100.0%)	58 人 (40.0%)	86 人 (59.3%)	1 人 (0.7%)
歯学部	47 人 (100.0%)	0 人 (0%)	41 人 (87.2%)	6 人 (12.8%)
薬学部（薬学科）	20 人 (100.0%)	3 人 (15.0%)	17 人 (85.0%)	0 人 (0.0%)
薬学部（創薬科学科）	66 人 (100.0%)	65 人 (98.5%)	1 人 (1.5%)	0 人 (0.0%)
工学部	840 人 (100.0%)	758 人 (90.2%)	63 人 (7.5%)	19 人 (2.3%)
農学部	155 人 (100.0%)	127 人 (81.9%)	23 人 (14.8%)	5 人 (3.2%)
合計	2,439 人 (100%)	1,403 人 (57.5%)	921 人 (37.8%)	115 人 (4.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
公務、情報通信業、金融・保険業、医療・福祉、製造業				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

各学部の専門教育科目は各学部規程及び履修内規に、全学教育科目は全学教育科目等規程で定めている。

東北大学文学部履修内規

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001781.html

東北大学教育学部履修内規

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001782.html

東北大学法学部履修内規

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001783.html

東北大学経済学部履修内規

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001784.html

東北大学理学部履修内規

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001785.html

東北大学医学部医学科履修内規

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001786.html

東北大学医学部保健学科履修内規

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001787.html

東北大学歯学部履修内規

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001788.html

東北大学薬学部履修内規

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001789.html

東北大学工学部授業科目及び単位数内規

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001790.html

東北大学農学部履修内規

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00001791.html

東北大学全学教育科目等規程

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei/reiki_honbun/u101RG00000226.html

授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画については、シラバスに記載している。

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/education/01/education0103/>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

単位の認定は、シラバスに明示された成績評価の方法に従って、筆記試験やレポート、平常点等複数の方法により行っている。

学部・大学院共通の成績評価基準として「成績評価区分」を定め、到達目標の達成水準と成績評価の相互関係を明確に示している。

成績表示	評価等 () 内は点数の区分および到達目標の達成水準における目安
AA	成績が特に優秀であるもの (90 点～100 点、到達目標を極めて優れた水準で達成している。)
A	成績が優秀であるもの (80 点～89 点、到達目標を優れた水準で達成している。)
B	成績が良好であるもの (70 点～79 点、到達目標を標準的な水準で達成している。)
C	成績が可であるもの (60～69 点、到達目標を達成している。)
D	成績が不可であるもの (59 点以下、到達目標に達していない。)
合格	成績が合格であるもの
認定	本学において修得した単位と認定したもの

卒業の認定に際しては、東北大学学部通則に定める修業年限期間（医学部医学科、歯学部、薬学部薬学科を除き 4 年、（医学部医学科、歯学部、薬学部薬学科は 6 年））在学し、かつ所定の授業科目を履修し、卒業に必要な単位を修得した者又は所定の授業科目を履修し、その試験に合格した者には、卒業を認め、学士の学位を授与している。

学部名	学科名		卒業又は修了に必要なとなる単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	人文社会学科		126 単位	有	単位
教育学部	教育科学科		125 単位	有	単位
法学部	法学科		129 単位	有	単位
経済学部	経済学科		125 単位	有	単位
	経営学科		125 単位	有	単位
理学部	数学科		124 単位	有	単位
	物理学科		124 単位	有	単位
	宇宙地球物理学科		124 単位	有	単位
	化学科		124 単位	有	単位
	地圏環境科学科		124 単位	有	単位
	地球惑星物質科学科		124 単位	有	単位
	生物学科		124 単位	有	単位
医学部	医学科		217.5 単位	有	単位
	保健学科	看護学専攻	145 単位	有	単位
		放射線技術科学専攻	136 単位	有	単位
		検査技術科学専攻	127 単位	有	単位

歯学部	歯学科	193 単位	有	単位
薬学部	創薬科学科	142 単位	有	単位
	薬学科	202 単位	有	単位
工学部	機械知能・航空工学科	130 単位	有	単位
	電気情報物理工学科	124 単位	有	単位
	化学・バイオ工学科	128 単位	有	単位
	材料科学総合学科	129 単位	有	単位
	建築社会環境工学科	125 単位	有	単位
農学部	生物生産科学科	133 単位	有	単位
	応用生物化学科	133 単位	有	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：東北大学ホームページへの掲載 https://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/about/04/about0402 （総長賞受賞者、藤野先生記念奨励賞受賞者） https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/studentlife/09/studentlife0901/ （学生生活調査）		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：東北大学ホームページへの掲載

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/010.pdf>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部	全学科	535, 800 円	282, 000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組					
(概要)					
【学習支援センターによるサポート】 主に学部1・2年生（全学教育段階）の学びをサポートする組織として学習支援センターを設置しており、センターでは「SLA（エスエルエー）」と呼ばれる学部3年生から大学院生までの幅広い層の先輩学生たちが、学生同士の学び合いの力を活かして、リメディアル支援からレベルアップ支援まで、幅広い学習サポート活動を行っている。					
【各学部における特色ある修学支援体制】 ○文学部 (1) 入学者を15クラスに分け、各クラスにクラスアドバイザー教員（全15名）を配置して、新入生に対する少人数のきめ細かな修学指導を行っている。 (2) 教務室が随時学生の修学相談に対応している。 (3) 授業、学生生活等（修学全般）に関する学生からの質問、相談を受け付ける窓口として、学生相談委員会を設置し、相談員を4名配置している。相談は、学生相談窓口アドレスへのメールで受け付ける。相談メールはメーリングリストを通じて、自動的に委員全員に回覧し対応を検討する。 ○教育学部 (1) 学年を5グループ（クラス）に班編制し、クラスアドバイザー（教員）を配置 (2) オリエンテーション開催前に学生の成績表をクラスアドバイザー等に送付し、修得単位数が少ない学生に関しては、個別に指導を行っている。 (3) 履修登録期間終了後には履修登録状況や修得単位数の状況を教務委員会で共有している。 ○法学部 学生約4～6人につき、教員1人をアドバイザーとして配置し、履修相談等の対応を行っている。 ○経済学部 (1) 学生相談室など学生の修学上の問題を発見・解決を図るための仕組みを整備 (2) 卒業に必要な残り単位数（科目）を、表計算ソフトで学生自身が確認できる卒業判定シート（ファイル）を提供している。 ○理学部 (1) キャンパスライフ支援室（相談員2名）に相談窓口を設置している。 (2) TAによる修学指導を構築しており、成績不振学生、学業に対し積極的な学生、大学院入試対策等の学習支援を実施 ○医学部医学科 アドバイザー教授を配置し、きめ細かい修学指導を行っている。 ○医学部保健学科 (1) 学生に一人ずつ担当のチューター教員を配置し、チューターが修学指導を行っている。新入生には、チューターと面談する機会を設け、学生がチューターに					

相談しやすい環境を作っている。

- (2) キャリアパスに関する情報提供と相談を受ける役割の教員を配置し、進路に関する個別の相談等の支援を行っている。

○歯学部

入学時から卒業時までの6年間を同一人の学年担当教務委員が担当し、学部教務委員会及び教務係と連携して、きめ細かな修学支援を行っている。

○薬学部

- (1) セメスター毎の単位修得状況確認および授業の出席状況確認に努め、欠席が目立つ学生および単位修得状況が芳しくない学生については、学部教務委員長または学年担当が、教務係員とともに面談を実施している。
- (2) 学部1年生に対しては、入学時に決定した仮配属分野を通じて、支援および懇談を実施している。

○工学部

- (1) 各系に学生支援室を設け、相談員として本研究科等に在籍していた教員1名を配置し、週2日、修学上及び生活上の相談に対応している。
- (2) 平成15年度から「学習等達成度記録簿（現名称：自己評価記録簿）」を導入し、学生が学習の歩みや現在の到達状況、次に取り組むべきもの（目標）を把握するのに役立てている。なお、年2回、学生が自己評価記録簿へ記載した事項は、研究室配属による指導教員決定までの間はアドバイザー教員が、研究室配属後は指導教員が、学生と面談をしながら確認し、適切な指導を行えるよう制度化している。

○農学部

学部新生はクラス担任、学部2・3年次生はコース代表、学部4年次生は所属分野の教員がそれぞれ修学指導を行っている。

【入学料・授業料免除、奨学金】

日本学生支援機構給付奨学金の予約採用者や在学定期採用者・申請予定者、また、経済的理由等により納付することが困難な学生に対し、入学料及び授業料の免除や徴収猶予の経済的支援を行っている。また、大規模災害により被災した学生を対象とした入学料及び授業料免除制度等を整備している。

奨学金については、日本学生支援機構給付奨学金の受給対象外の学生を対象とする返済不要の給付型奨学金の支給など、東北大学独自の奨学金制度を整備している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

キャリア・社会連携支援センターキャリア支援室では全学の学生のキャリア・就職支援を行っており、キャリア関連の授業やフェア（学内合同企業説明会、インターンシップ・業界仕事研究フェア、OB・OGによる業界仕事研究フェア、企業Dayなどによる学生と企業の交流機会の提供）、各種セミナー・ワークショップなど年間を通じて多様なキャリア支援プログラムを提供している。

その他、学生の進路・就職に関する個別相談を行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

保健管理センターは、学生の健康を保持し、更に増進することを目的として、健康に関する種々の業務を行っています。特に、学生の定期健康診断や有機溶剤・特定化学物質取扱学生健診、放射線取扱学生特別健康診断など定期的に各種健康診断を行い、必要に応じ二次検査を実施している。なお、随時健康相談も対応している。また、各キャンパスに設置している片平保健室、医・歯学部保健室、工学部保健室及び農学部保健室において、健康相談及び体調不良者への対応を行っている。その他身体的・精神的な健康に関する疑問、悩みごとについての相談も行っている。

学生相談・特別支援センターには、学生相談所及び特別支援室を設置し、学生相談所は学業、将来の進路、人間関係、性格、こころの健康など、学生生活を送る上でのさまざまなことに関して、専門のスタッフ（臨床心理士）が相談に応じている。また、特別支援室は、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、発達障害など、障害のある学生からの相談を専門の相談員が対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：東北大学ホームページへの掲載

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A 4とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F104110100856
学校名 (〇〇大学 等)	東北大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	国立大学法人東北大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		569人	566人	620人
内 訳	第Ⅰ区分	300人	296人	
	(うち多子世帯)	(人)	(人)	
	第Ⅱ区分	151人	147人	
	(うち多子世帯)	(人)	(人)	
	第Ⅲ区分	98人	96人	
	(うち多子世帯)	(人)	(人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	20人	27人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－
合計（年間）				627人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	11人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	24人	人	人
（備考） 事由が重複する者あり。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	—	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	—	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	—	人	人
GPA等が下位4分の1	51人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	17人	人	人
計	55人	人	人
(備考) 事由が重複する者あり。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。